

学校法人星美学園
星美学園短期大学
機関別評価結果

平成22年3月18日
財団法人短期大学基準協会

星美学園短期大学の概要

設置者	学校法人 星美学園
理事長名	鈴木 裕子
学長名	阿部 健一
ALO	草野 隆
開設年月日	昭和35年4月1日
所在地	東京都北区赤羽台4-2-14

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間文化学科		80
幼児保育学科		70
	合計	150

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	幼児保育専攻	50
専攻科	イタリア語イタリア文化専攻	10
	合計	60

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

星美学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 22 年 3 月 18 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 20 年 6 月 5 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

昭和 35 年に設立して以来一貫して、設立母体である修道会の創立者聖ヨハネ・ボスコが実践した「予防教育法による全人間教育」を建学の精神とし、現在まで受け継がれてきている。この建学の精神に基づいて育成すべき人間像を「明敏、清純、温和」と定め、このような人間像をカトリックの精神と価値観によって育成することが教育理念として示されている。また、創立者聖ヨハネ・ボスコの建学の精神と教育理念を基に、教育目的・教育目標も明確に確立されている。

幼児保育学科は、幼稚園教諭の免許取得を主目的として、教育課程も体系的に編成されている。また、専攻科（幼児保育専攻）に進むことにより保育士の資格も取得することができる。人間文化学科は、六分野から成り、その内容は、ユニークである。

同一敷地内に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校などがあり、学園として良い雰囲気を保っている。特に幼児保育学科は幼稚園と連携して教育効果をあげている。

単位認定の方法と教員による学習評価は適切に行われている。また、アシステンテ制度など、教員が個々の学生をケアする体制ができています。学生の就職指導、資格取得の取り組み、四年制大学への編入学指導などは充実している。

短期大学案内・入学ガイドには、建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標等が明示され、選抜の方針、多様な選抜方法が周知されている。入学者に対するオリエンテーション等も適切に行われている。学習支援については、小規模短期大学であるメリットを生かして、個々の学生を教員がきめ細かくケアする体制ができています。

教員によって個人差はあるが、継続的に研究活動が行われ、年度ごとに教員各個人の研究活動の状況が公開されている。研究日は、土曜日を除いて原則として週に 1 日確保されている。

創立者の精神を受け継ぎ伝統的に地域との交流が活発になされ、積極的に公開講座や生涯学習講座、正規授業等の開放に努めている。また、学生の社会的活動を奨励している。

理事長は、学長に信頼をおき、学長はリーダーシップを発揮しながら教職員の信頼

関係のもとに運営している。財務状況は、支出超過であるが、固定負債がなく資金の余裕がある。現状については、理事会を含め各関係者も把握しており、収支状況の健全化に向けた取り組みも検討している。

学則に、自己点検・評価を短期大学運営の中核として位置付け、「将来計画・自己点検委員会」、「管理運営評価委員会」、「総合評価委員会」の組織を作り、積極的に自己点検・評価、改革・改善に取り組んでいる。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 総合教養科目として、「ドン・ボスコ研究」を設置するなど学長講話、教職員研修会を通じて、創立者から受け継がれた建学の精神に基づいた教育理念が生かされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 人間文化学科・幼児保育学科とも、様々な資格が取得できるよう教育課程の中で十分に配慮されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館を利用して演習ゼミ等の授業を行うなど工夫している。また、他の図書館との相互利用活動など図書館活動も積極的に行っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 公開講座や地域との交流など社会的活動が活発になされている。また、社会的活動を学生の重要な人間育成の場ととらえ、病院や高齢者施設などでのボランティア活動に積極的に参加させている。

- イタリアやタイの海外教育機関と連携して多様な国際交流を行っている。

評価領域Ⅸ 財務

- 当該学校法人は、省エネルギー対策及び地球環境保全の観点から、最大契約電力量を超える恐れのある場合に警告が発せられるダイヤモンドコントロール装置を設置している。この取り組みは、教職員や学生に啓発を行い、電気の節約など省エネルギー活動となるものであり、これは支出抑制、地球環境保全対策にも寄与している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- ピアノ実技の未経験者が入学しているので、ピアノ個人レッスン室の拡充が望ましい。

評価領域Ⅸ 財務

- 学園の発展的継続を支える余裕資金は十分にあり、強い財政基盤を有しているが、近年は支出超過の状態が続いている。収支バランス改善のために、適切な措置を講じられたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

昭和35年に設立して以来一貫して、設立母体である修道会の創立者聖ヨハネ・ボスコが実践した「予防教育法による全人間教育」を建学の精神とし、現在まで受け継がれてきている。この建学の精神に基づいて育成すべき人間像を「明敏、清純、温和」と定め、このような人間像をカトリックの精神と価値観によって育成することが教育理念として示されている。

また、創立者聖ヨハネ・ボスコの建学の精神と教育理念を基に、教育目的・教育目標も明確に確立されている。

これらの教育目的・教育目標は、6年ごとにローマにおいて行う総会に併せて行われる日本管区の会議の出席者を中心に点検が行われている。

建学の精神・教育理念・教育目的・教育目標は、学校行事や刊行物で学生にもよく理解できるように工夫されている。また、年度末に行われる会議で教職員にも確認できるようにしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

人間文化学科も幼児保育学科も建学の精神や教育理念が反映され、その内容はそれぞれの学科等の教育目的や教育目標に基づいている。

幼児保育学科は、幼稚園教諭の免許取得を主目的として、教育課程も体系的に編成されている。

人間文化学科については、学生のニーズにこたえようと、教員のリソースを最大限生かし、今ある人材でできるだけの対応をしようと努力していることが感じられ、「日

本語日本文学」「イタリア語イタリア文化」「生活造形」「情報文化」「医療福祉管理」「総合」の六つの分野のそれぞれの内容は、ユニークなものとなっている。しかし、人間文化学科の教育課程の編成については、六つの分野の内容を考えると関連性という意味ではやや統一が乏しく、散漫な印象を受ける。今後は、人間文化学科の教育課程をもう少し体系的にまとまりのあるものに編成していく必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

同一敷地内に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校などがあり、施設を上手に活用している。特に図書館の環境がよい。広さも明るさも十分で、蔵書数も内容も充実している。図書検索システムの整備、学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など図書館活動も積極的に行っている。貸し出し数が増えていることもうなずける。

ピアノ個人レッスン室については、少なすぎる。入試からピアノ実技試験を廃止したことを踏まえれば、未経験者の増加は必然であり、ピアノ個人レッスン室の拡充が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

単位認定の方法は適切で、単位の取得状況も妥当な範囲であり、教員による学習評価は適切に行われていると考えられる。授業満足度調査も行われ、教員による改善への取り組みも始まっている。退学者は5パーセント以下であり、アシステンテ制度など、教員が個々の学生をケアする体制ができている。資格取得の取り組みと実績も十分であり、また、四年制大学への編入学実績がある。学科によって事情は異なるが、専門就職の割合は高い。就職先に対してアンケートを実施して、卒業生に対する意見を聴取しているほか、卒業生に対する就職後アンケートを実施、また同窓会とも連携し、在学生の資質向上や進路指導に役立てている。編入学先へのアンケート調査は未実施であるが、教員間の個人的なつながりや卒業生とのコンタクトを利用して、意見を聴取している。

評価領域Ⅴ 学生支援

短期大学案内・入学ガイドには建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標等が明示され、選抜の方針、多様な選抜方法が周知されている。入学予定者には入学前課題や行事参加の機会が提供され、入学者に対するオリエンテーションも適切に行われている。学習支援については、すべてにおいて組織的な取り組みとはいえないものの、小規模短期大学であるメリットを生かして、個々の学生を教員がきめ細かくケアする体制ができている。独自の奨学金制度、非常勤スクールカウンセラーによる学生相談など、学生生活のために配慮がなされ、学生生活に関するアンケートも実施されている。就職支援・編入学支援が全学をあげて行われ、高い実績を残している。留学生・社会人学生受け入れの制度が整備され、聴覚障がいのある学生を受け入れた実績もあ

る。長期履修学生規程を設け、3年以上6年以内の年限で履修が可能になっており、実際にこの制度を利用している学生がいる。

評価領域Ⅵ 研究

教員によって個人差はあるが、継続的に研究活動が行われ、年度ごとに教員各個人の研究活動の状況が公開されている。科学研究費補助金等の申請・採択、研究費の外部からの調達については実績がない。教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践及びその成果についての報告も奨励されている。研究費は、専任教員一人当たりの金額が定められており、規程に基づいて支出されている。紀要は毎年発行されており、教員が研究成果を発表する機会は確保されている。およそ20平方メートルの研究室を2人で使用している。冷暖房、学内LAN端子が備わり、各デスクにノートパソコンが備え付けられている。土曜日を除いて原則として週に1日研究日が確保されているが、学生の個別指導や学校行事など、各種校務に時間をとられ、研究時間の確保にはどの教員も苦慮している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

創立者の精神を受け継ぎ伝統的に地域との交流が活発になされ、今なおその輪が広げられつつある。地域文化の向上に貢献することを大学の使命と自覚し、カトリックミッションスクールの特性を生かし、積極的に公開講座や生涯学習講座、正規授業等の開放に努めている。

また、学生の社会的活動を積極的に奨励し、ボランティア活動をポイント制にして授業単位に組み込むなど積極的に評価している。

当該短期大学の特色を生かした海外派遣や海外教育機関等との交流について制度が整い、学生も教職員も活発に行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

私立学校法及び学校法人寄附行為に基づき理事会を中心とした管理運営がされている。当該短期大学においては、理事長も学長に信頼をおき、学長はリーダーシップを発揮しながら、教職員の信頼関係のもと、運営している。事務組織は、同一キャンパスにすべての部門があることから、法人事務局を中心とした効率的な編成がされており、機能的運営も確立している。また、学校法人に一元化することで諸規程の整備、協力体制が充実され、組織的な連携に力が注がれている。

評価領域Ⅸ 財務

事業計画は、部門・所属長会議等で策定されることから、当該短期大学の意向が十分反映された状況で理事会に諮り、決議後執行されている。執行については、システ

ム化された出納業務で円滑に実施されている。

各計算書は、学校法人会計基準に従って、適切に処理されている。収支状況は、学校法人全体・短期大学部門とも消費支出超過となっている。その要因について理事会を含め各関係者も把握しており、その是正に向け学校法人及び当該短期大学は、具体的支出抑制（光熱水費）に取り組みながら、更なる収支状況の健全化に向けた取り組みも検討している。とりわけ、学生募集体制の充実が必要と思われる。

教育に必要な施設設備は、整備されており、災害対策等への対策を考慮しながら施設設備の維持管理もされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

学則に、自己点検・評価を短期大学運営の中核として位置付け、「将来計画・自己点検委員会」、「管理運営評価委員会」、「総合評価委員会」の組織を作り、平成 17 年度より、毎年度「自己点検・評価報告書」（学生生活・学科履修アンケート集計結果中心）を発行している。

教育研究活動については将来計画・自己点検委員会が、管理運営については管理運営評価委員会が設けられ、この二つの委員会を総括する形で総合評価委員会が開催されている。

将来計画・自己点検委員会は担当分野の各委員会や部署に調査分析を依頼しており、教員全員が何らかの形でかかわっている。